

アンケート結果 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

ア 学校と地域との距離は近くなったと思うか。

	回答数	割合
はい	29 校	80.6%
いいえ	0 校	0%
どちらでもない	7 校	19.4%
合計	36 校	100%

8割の学校が「学校と地域の距離が近くなった」と回答している。
「どちらでもない」と回答している学校のうち、2校は以前から距離が近い
ため改めて近くなったというわけ
ではない、として「どちらでもない」と
している。

イ コミュニティ・スクールについて得られた成果は。（複数選択可）

設問	回答数	割合
学校・保護者・地域の関係が深まった。	25 校	69.4%
地域と協働した取り組みが組織的に行えるようになった。	22 校	61.1%
学校に対する保護者や地域の理解が深まった。	19 校	52.8%
保護者・地域による学校支援活動が活発になった。	19 校	52.8%
特色ある学校づくりが進んだ。	19 校	52.8%
子どもたちへの学習支援が充実した。	13 校	36.1%
学校の課題や悩みの改善に効果があった（生徒指導上以外）。	11 校	30.6%
教育課程の充実が図られた。	10 校	27.8%
教職員の意識改革が進んだ。	7 校	19.4%
校長のリーダーシップが向上した。	2 校	5.6%
教職員の負担軽減が図られ、子どもと向き合う時間が増えた。	2 校	5.6%
いじめ・不登校・暴力行為等の生徒指導上の課題への対応に効果があった。	0 校	0.0%
その他（※）	1 校	2.8%

その他の意見

- ・公民館で行われた中学校区でのCS研修は、意識向上につながった。

（補足：地域学校協働活動推進員配置年度に、市民協働推進課主催で開催される研修のこと）

ウ コミュニティ・スクールについての課題は。(複数選択可)

設問	回答数	割合
担当ではない教員の関心が低い。	19 校	52.8%
委員として適切な人材の確保・選定に苦勞する。	16 校	44.4%
教職員の多忙感が解消されない。	15 校	41.7%
学校運営協議会の存在が知られていない。	13 校	36.1%
会議が形骸化してしまっている。	13 校	36.1%
委員以外の保護者や地域の協力を得にくい。	12 校	33.3%
会議の日程調整・準備に苦勞する。	9 校	25.0%
活動費などの資金が十分ではない。	8 校	22.2%
会議の実施回数が少ない。	5 校	13.9%
前年踏襲になりがちである。(前年踏襲にこだわっている。)	3 校	8.3%
委員が負担感を感じている (ように見える)。	2 校	5.6%
教育委員会によるサポートが得られない。	0 校	0.0%
その他 (※)	0 校	0.0%

委員ではない教員の関心、委員以外の保護者や地域の方の協力を得にくい原因のひとつとして、学校運営協議会の存在が知られていないことが考えられる。

エ 地域学校協働活動の推進により、学校と地域の協働がより活発になると思うか。

	回答数	割合
はい	24 校	66.7%
いいえ	0 校	0%
分からない	12 校	33.3%
合計	36 校	100%

7 割近くが地域学校協働活動の推進に期待している。